

令和3年度

第2回大垣市社会教育委員の会 議事録

日 時	令和3年7月16日（金） 9:50～11:45
場 所	奥の細道むすびの地記念館
次 第	1 開会のことば 2 教育長あいさつ 3 議事 (1)意見交流 テーマ「市民に愛される社会教育施設になるには」 4 閉会のことば
出席者【大垣市社会教育委員9名、事務局12名、計21名】	
・大垣市社会教育委員	
佐野 篤、神谷 利行、竹中 昌子、稲川 明子、平野 宏司、 安田 義明、林 亜有美、河瀬 実浩、豊田美智子	
・教育委員会	
山本 譲（教育長）、寺嶋 太志（事務局長）、高橋 明洋（商工観光課主幹）、 山本 悠涼（商工観光課主事）、三浦 宏太（商工観光課主事補） 馬淵尚樹（奥の細道むすびの地記念館館長）、山崎 和真（文化振興課主事）	
・事務局	
堀 恭寿（社会教育スポーツ課長）、鎌宮 好孝（社会教育スポーツ課参事） 窪田 美保（社会教育スポーツ課主幹）、細野 未有（社会教育スポーツ課主事） 坪井 秀憲（社会教育指導員）	
傍聴者【なし】	
事務局 教育長	開会のことば 教育長あいさつ ・一週間後には東京オリンピックが開催される。人出の増加ということで新型コロナウイルス感染症の第5波が懸念されている。こうした中で感染が拡大しないか心配をしているが、この奥の細道むすびの地記念館をはじめ社会教育施設では、手指消毒やマスクの着用などご協力をいただきながら感染防止対策を行っている。昨年来のコロナ禍で社会教育施設は大きな影響を受けた。この記念館では、コロナ禍前までは、入場者が年間20万人以上でしたが、昨年は、10万人以下に半減した。この記念館で開催しているイベント等は年間5件以上あったが、昨年度は1件ということである。そうした外出を自粛する状況の中でも市民の皆様方に、ご家庭で文化芸術を

	楽しんでいただくということで市のホームページ上に郷土の先賢の作品を紹介したり、俳句作りの様子を紹介したりするなどして記念館関係の職員が様々な工夫をして協力して取り組んでいる。コロナが収束した今後につきましても生涯学習の拠点としてこの記念館が活用していただけるようにしたいと考えている。委員の皆様には、社会教育を推進していただくという立場から忌憚のないご意見をいただきたい。
奥の細道むすびの地記念館館長	館長あいさつ ・当館は、平成24年4月に開館し9年目になる。今年3月30日に入館者190万人を達成した。当館は、文化と観光という2つの側面を持った施設である。記念館の概要については、後ほどの会議にて説明する。最初は、当館の魅力の1つ、200インチ画面の3Dシアターをご視聴していただきたい。この3Dシアターの映像は、芭蕉が奥の細道で旅をした時季に合わせて直接現地に赴いて撮影したものである。現在6種類の映像を繰り返し上映している。芭蕉が旅した季節感を味わえるのではないかなと思う。来館者の方からも評判はよく、番組の間に5分の間があるが、続けて上映してほしいというご意見もある。全ての番組を見ると1時間30分かかる。それでは、シアターのご視聴をしていただき、その後、芭蕉館の常設展示の方を学芸員の山崎ご案内させていただきます。
事務局	以下の議事については、佐野議長様に進行をお願いする。 ※ 審議会公開の報告 ※ 傍聴人の許可
議長	議事 ・議事(1)「社会教育施設と地域づくりについて」事務局よりお願いする。 本日は、「市民に愛される社会教育施設になるには」というテーマのもとご意見を伺いたい。商工観光課から説明をお願いしたい。 ・それでは、奥の細道むすびの地記念館館長より説明していただく。
奥の細道むすびの地記念館館長	・記念館の概要と最近の来館者数、今年度の事業計画等について説明する。施設を先にご覧いただいたので、整備に至った経緯などについて説明する。松尾芭蕉は、元禄2年の春に江戸を出発し、5か月間2400キロの漂泊の旅である奥の細道紀行を、大垣で終えた。大垣市は、昭和32年にこの地を『史跡 奥の細道むすびの地』に指定し、周辺整備に取り組んできた。この奥の

細道むすびの地記念館は、芭蕉が俳友として親交を深めた船問屋を営んでいた谷木因の屋敷のあった場所に建てられた。施設を整備することになった背景は、JR 大垣駅を中心とする地域が、近年のモータリゼーションの進展や郊外型大規模店舗の立地などにより、商業核としての魅力が薄れつつあったことが理由にある。平成 20 年に大垣市制 90 周年を契機として、中心市街地の活性化に向け、大垣市の個性を活かし、中心市街地の回遊性の誘発と市内外からの来訪者の増加を目指し、歴史と文化の息づく奥の細道むすびの地周辺に「憩いと賑わいの空間」を整備する構想を発表した。この中心となる施設がこの記念館ということである。

整備するにあたり 3 つの目標を掲げた。1 つ目は、中心市街地の活性化である。シンボリックな拠点の 1 つとして整備を進め、回遊性のある新たな賑わいを創出する。2 つ目は、ふるさと大垣市の誇りと愛着の醸成。3 つ目が観光交流産業の促進である。これらの目標に基づき、奥の細道むすびの地周辺を歴史と文化の場、観光交流産業促進の場として整備を進めることにした。主な整備としては、記念館のほか、多くの市民が交流できるイベント広場の整備、駐車場、遊歩道の整備を行った。平成 22 年 10 月に着工し、平成 24 年 4 月に開館した。

この館は、奥の細道の解説をはじめ、芭蕉の人となりや旅に生きた人生を紹介している「芭蕉館」、江戸後期から幕末にかけて活躍した郷土の 5 人の先賢の偉業を紹介した「先賢館」、大垣市・西濃地域の観光情報や全国の芭蕉関連施設を紹介する「観光・交流館」の 3 館がある。小原鉄心の別荘である大垣市文化財に指定されている「無可有荘大醒榭」の復元をしている。

当館は年末年始を除く年中無休となっている。全国に芭蕉に関連した施設はいくつかあるが、紀行文の全体を取り上げ、様々な角度から芭蕉の人物像を紹介した施設は全国唯一ある。観光・交流館は、9 時から 21 時まで開館している。入館料は無料である。各種情報コーナー等、幅広い情報を提供している。また、物産コーナーでは、大垣の銘菓などお土産品を購入していただいている。2 階には多目的室が 2 部屋ある。会議、講演、講座等様々な活動に利用してもらっている。パーティションで 2 つに仕切れることもでき、利用料金も低額料金に設定している。以上が施設の概要である。

- ・入館実績は、資料のとおりである。芭蕉館は、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、減少した。観光バスの数が 94%減である。毎年 500 ～600 台のバスでの来館が昨年度は 38 台という一割にも満たない状況であ

商 工 観 光 課	った。多目的室の利用者数は閉館時間を繰り上げ、人数制限を実施しているので前年の3割となっている。コロナが終息しても来館者が回復するのか心配している状況である。 ・今年度の事業計画であるが、市の観光関係など様々なイベント時の拠点的な施設として多くの方にお越しいただいている。当館の常設展示のほかに、松尾芭蕉の奥の細道と大垣の先賢を紹介する企画展を、春、夏、秋の年3回開催している。春と夏については、松尾芭蕉奥の細道関連の企画展、夏については、先賢関連の内容となっている。今年度の「元禄の有名俳人芭蕉と木因」と題する30回企画展は5月にすでに終了している。明日からは、大垣の収蔵資料展「おおがき宝モノがたり」が始まる。10月には、第31回企画展として、美濃を拠点に全国に勢力を広げた俳諧の一派「美濃派」について紹介する予定である。 この企画展に合わせて、展示内容に関連した講演会「企画展関連講座」を外部講師を招いて開催する。 その他、著名な俳人を講師に迎えた「おおがき芭蕉交流句会」や初心者向けの俳句教室「三尺俳句教室」、「子ども俳句教室」をそれぞれ全4回開催している。 ・次に奥の細道むすびの地記念館について説明する。 奥の細道むすびの地記念館は、芭蕉館、先賢館、観光・交流館の3館で構成されている。観光・交流館は、この地域の情報活動する場としての役割がある。映像等を用いて、西濃の観光情報を発信し、滞留時間の増加を目指している。また、地域の皆様にご利用いただける施設として、多目的室を備えている。大きい多目的室は、部屋を半分に分けて使用することもできる。利用実績は別紙のとおりである。 芭蕉館の入館者とともにこの多目的室も新型コロナウイルス感染症の影響を受けている。年間約1400件の利用をコンスタントに積み重ねている。令和2年度はコロナ感染症の影響により、利用数が減ってきているが、R3年度も6月までに150件ほどの利用をしていただいている。 続いて、奥の細道むすびの地記念館のイベント事業について説明する。100万人達成は、平成24年の4月のオープンから平成28年5月と4年間で達成した。それ以降、順調に入館者は増えてきているが、新型コロナウイルス感染症の影響により、R2～R3の伸びは少ない。もう少しで200万人達成である。
----------------------	---

	次に、イベントについて、おおがき芭蕉楽市を紹介する。記念館の前のイベント広場のスペースを使い、楽しんでいただく事業である。例年は、交流都市、奥の細道ゆかりのある町の皆さんが物産をもっていただき、物産展を開催している。お子様が体験していただけるようなクイズなどを館内で行っている。俳句作りなども行っている。現在は、おおがき芭蕉楽市は見送りの状態である。 春の芭蕉祭事業は、毎年4月の第1週に開催しているものである。この春の芭蕉祭の中では、このむすびの地記念館のみならず周辺の奥の細道むすびの地全体で盛り上げていくものである。俳句まつり、船下り等も合わせて盛り上げていくものである。 また、観光側面とは別に、教育委員会がふるさと魅力体験事業として、小学生の皆さんにこちらに見学していただいている。施設としての在り方として、市民利用の増加ということで、学校との連携の強化、来館者の増加ということでPRなどを展開する。観光側面は情報発信を進めていく。
議長	・ それでは、社会教育委員の皆様には、社会教育施設を活かすにはどうしたらよいのか。どうしたら足を運んでいただけるのか。それぞれのお立場からご意見を伺いたい。質問等も含めてご意見いただきたい。
委員	・ 来館者を増やしていきたいという意見があった。芭蕉が30代になってこのような俳句の旅をしたということを知った。芭蕉の人となりを書いてあるパネルもあった。食べ物では、こんにゃくが好きであった等、人間らしい姿を知ることができた。充実した展示の中身が館の中に入って初めて分かることがあった。情報発信を積極的に行うことで、多くの方が興味を持たれるのではないか。
委員	・ 学びの深さがどこから来ているのか。学校教育の観点から言うと、実物に触れるということ映像でイメージがつながることが分かりやすさにつながる。文字が多い、映像等を使いイメージ化させている。非常にディスプレイが工夫されている。当時の人たちの感動とか心とか生き方を子どもたちが共感したりすることは、イメージを持つことはとても大切である。社会教育施設とは、そういうものである。施設の中の資料を充実させるためには、調査研究、史実の裏付けがあって歴史をつなぐことができる。深い追求があって、表現

	されていることが非常に大切である。
委員	・大垣市にはこのような施設が多くある。芭蕉会館はイベントを伴っての活性化は、十分分かっている。施設をつくるにあたって、観光協会がパンフレットなどを目にするが、館だけでなく駅前通りなどの商店街の活性化につながるようなサービスのものがあればと思う。お店で購入したら駐車場が無料になるなど、何か取組がないか。奥の細道むすびの地記念館から駅前の町の発展につながるというとは思っている。
委員	・どこまでのことを学校に PR しているのか。なぜ、来館者は、県外の方が多いのか。どこまで PR しているのか。駐車場の問題などはどうなのか。教えていただきたい。
商 工 観 光 課	・学校関係の PR については、チラシ配布とポスター掲示のご協力をいただいている。子どもに来ていただきたいということで、保育園等に塗り絵の台紙を配り、当日塗った物を持ってきていただく。何かをプレゼントするといったこともしている。全国展開ですが、奥の細道むすびの地にゆかりのある都市に訪れて直接お伝えしている。館のパンフレットを現地に置かせていただいている。また、各地のパンフレットを集約してむすびの地記念館に置かせていただいている。大型の駐車場ですが、館の北側に第 1 駐車場、お城の西にむすびの地第 2 駐車場がある。多くの観光バスに来ていただけるよう積極的に発信していきたい。
委員	・子育て世代の意見として、大垣市に住んで中まで入っての観覧は、初めてで、映像もとてもきれいでわかりやすくとても良かった。子どもを連れてこようとすると値段が少し高いかなと感じる。家族で来ようとすると 3000 円かかる。中に入ってガイドがいる場合はいいが、普段は、見て終わるだけになりそうである。塗り絵はとてもいいし、触るもの、体験など何か子どもたちが喜びそうな企画があるといいと思う。家庭の日は、無料開放にするなどにとすると来館しやすくなるのではないか。多目的室の利用ですが、実際に家庭教育学級で活用したことがある。いろんなイベントなどこの部屋を借りてできるということをもっと情報発信できるとよい。
委員	・素晴らしい施設、展示等、充実している。レプリカが並んでいるが、木の質

	感とか絵の表現の仕方とか細かなところまで見ることができる。「レプリカの技術の凄さを知る」という講座とか子どもたちに提案してはどうか。多目的室は、俳句以外でも使うことができるということ、これからは利用させていただきたい。
委員	・学芸員から説明を聞いて、展示の素晴らしさが伝わる。芭蕉の奥の深さを知り、染み込んでいった。この館は、常に展示が変わる。そういったところをいかに PR していくか。来館者は、県外の方がとても多い。大垣に感動して帰られる。来館者に聞くと「大垣はいいところ」という言葉をよく聞く。来館者が楽しんで企画に取り組んでいる姿をコロナが終息した後、期待している。
商 工 観 光課	・観光の側面から重要なお意見をいただいた。観光では、体験が重要である。子どもに体験していただけるようなことを考えていきたい。相手に合わせた PR というのもこれから検討していきたい。入館料は、18 歳未満は、無料である。そういったことも PR が足りないということも反省し、課題として受け止め、これからも取り組んでいく。
議長	・コロナ禍での制約があり、苦労がある。来るとやはり素晴らしい施設ということを感じることができる。きっかけづくりをどうしていくか。情報発信をどうしていくか、または、「やってみたい」「見てみたい」「来てみたい」とどうしたら言ってもらえるかが、これからの課題ではないかと思う。「やってみたい」「見てみたい」「来てみたい」を掘り下げてもらうことでこれからの社会教育施設の在り方が見えてくるのではないかと思う。
事務局	閉会のことば ・以上で、社会教育委員の会を閉じる。

上記のとおり、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名者 _____